

文部科学省実施 令和6年度 教師の英語力・指導力の向上のための 実践的オンライン研修 (中・高等学校教師プログラム) 実施案内

Online course for Teaching English(略称：OTE)は、日本の中・高の英語教師の現状やニーズを踏まえてブリティッシュ・カウンシルが開発したコースです。研修を通して、言語活動を通じた指導についての効果的な技術を習得し、授業改善を確実に進めます。

都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校の参加申込受付は、当研究所がとりまとめを行います。是非ご参加いただきたくご案内します。

◎研修の特徴

- ・発信力の強化、特に「話すこと(やり取り)」の指導に焦点を当てた10時間のコース。
- ・ライブで実施するワークショップ(同時双方向型)で、デモ授業を体験。実際のコミュニケーションの過程で必要な様々な指導上の配慮(支援)の具体的・実践的な例を知る。
- ・セルフアクセス(eラーニング)8時間を通して、第二言語習得、動機付け、学習科学などの最新の科学的根拠に基づいた効果的な指導法と、その指導を行うべき理由や効果への理解を深める。研修で学んだ具体的・実践的な指導技術を実際に行う「事後タスク」に取り組むことで授業改善を進め、受講者の指導に対する自信をより高め、生徒の英語力の向上につなげる。
- ・いずれのコースも実践的な英語指導の国際資格と日本での豊富な教員研修経験を持つ講師が担当。

★概要

会 期	【中 学 校】令和6年6月～令和7年1月(期間中10時間程度) 【会期変更】 【高等学校】令和6年8月～令和7年1月(期間中10時間程度)
会 場	オンライン研修
募集人員	100名 <内訳：中学校30名、高等学校70名>
申込締切	5月14日(火) FAX またはメール必着
参加対象	都道府県私学協会加盟の私立中学校、高等学校、中等教育学校の英語科教員
受 託 先	ブリティッシュ・カウンシル
参 加 費	無料 ※オンライン研修に必要なPC等はご自身でご用意ください。

★受講者に期待されること(受講要件)

- ・本研修を主体的に受講し、授業等の改善に積極的・継続的に取り組む意欲があること。
- ・研修で課された課題(事後タスクや意識調査など)に必ず取り組むこと。
- ・研修で得た知識や技術を、日常の授業で実践すること。
- ・研修で必要とされるICT環境を整えられること。
- ・必要に応じて所属校での調整(研修受講の時間調整や授業実践に向けて所属長や同僚から理解や協力を得ること)ができること。



★研修内容★

【中学校】

ライブ(ワークショップ)では、帯活動などで繰り返し取り組むことができる「スモールトーク」の進め方や指導技術を紹介します。オンラインで実施するデモ授業への参加、指導技術のマイクロティーチング(模擬授業)を通して、「即興で伝え合う」「対話を継続する」等について具体的な指導技術を知り、授業実践に向けて自信を高めます。

セルフアクセス(eラーニング)は3ユニットに分かれます。

1. 【やり取りの指導】「話すこと」、特にやり取り指導を効果的に進めるための理論、生徒を上達に導く評価、技能統合型の指導等を扱います。
2. 【語彙指導】スピーキング力を高めていくには、生徒の語彙力の充実が必要になります。生徒の記憶に残る新出語彙の導入の方法、既習語彙を繰り返し扱うことや使う練習をする際の留意事項等を紹介します。
3. 【書くことの指導】すべての生徒が自分の意見や経験を表現し、課題を完了できるようにするための支援の具体例や評価等を扱います。

【高等学校】

ライブ(ワークショップ)では、「読むこと」と「話すこと」の技能統合型の指導のデモ授業と分析を行います。受講者の興味関心に基づき、次のいずれかを選択します。

- ・A コース：生徒の英語力を伸ばすこと(イメージ：CEFR A1 や、A2 の生徒の力を伸ばす)
- ・B コース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばすこと(イメージ：CEFR B1 以上を目指す生徒の力を伸ばす)

セルフアクセス(eラーニング)は3ユニットに分かれます。

1. 【やり取りの指導】「話すこと」、特にやり取り指導を効果的に進めるための理論や、生徒を上達に導く評価、技能統合型の指導等を扱います。
2. 【語彙指導】言語学習の根幹である語彙の学習方略や生徒の長期記憶に定着させるための支援について考えます。リーディングやリスニング中の語彙の扱いや、課題別に、学習過程のあらゆる段階で行う配慮等も扱います。
3. 【書くことの指導】すべての生徒が自分の意見や経験を表現し、課題を完了できるようにするための支援、生徒を上達に導くための評価、まとまりのある文章を書くための支援等を紹介します。

★研修の流れ★

ユニット2～4の受講時期は目安として記載しています。1月中旬までにすべてのユニット受講と授業実践(事後タスク)が完了するよう、各自の状況に合わせて学習と授業実践を計画してください。

	中学校	高等学校
5月	・受講者へ受講案内とライブ(ワークショップ)参加日時をご連絡します。(5/22-24を予定)	
6月	・意識調査(オンラインフォームで回答) ・Unit 1: Small Talk: Demonstration & Analysis (2時間) ※6/26、6/27、7/2	・意識調査(オンラインフォームで回答)
7月	・Unit 1: 事後タスク	
8月		・Unit 1: Integrated skills lesson: Demonstration & Analysis (2時間) ※8/1、8/6、8/7
9月	・Unit 2: Teaching interactive speaking (3時間)	・Unit 1: 事後タスク ・Unit 2: Teaching interactive speaking (3時間)
10月	・Unit 2: 事後タスク ・Unit 3: Teaching and reviewing new words and phrases (3時間)	・Unit 2: 事後タスク ・Unit 3: Helping students to remember and use new language (3時間)
11月	・Unit 3: 事後タスク ・Unit 4: Teaching writing (2時間)	・Unit 3: 事後タスク ・Unit 4: Teaching writing (2時間)
12月	・Unit 4: 事後タスク	・Unit 4: 事後タスク
1月	・授業実践の振り返り	・授業実践の振り返り

「話すこと」の指導や「書くこと」の指導における指導手順は分解(細分化)でき、多くの指導のサブスキル(下位技能)に分けることができます。そういったサブスキルは、実際のコミュニケーションの過程で必要な様々な指導上の配慮(支援)となることが多く、「足場かけ」と呼ばれることもあります。サブスキルは通常再現性が高く、根拠もしっかり示されています。今回の研修 OTE では、そういった根拠や効果とともに、具体的な指導スキルをご紹介します。

★受講形式★

中・高ともに、4つのユニットに分かれ、ライブ(ワークショップ)とセルフアクセス(eラーニング)の2種類で構成されます。

①ユニット1: ライブ(ワークショップ)

ZOOM を使って同時双方向で行う2時間程度のワークショップです。英語指導における実践的な国際資格を持ち、日本での教員研修が豊富な講師が担当します。

**★研修日時 中学校: 6月26日(水)、27日(木)、7月2日(火) <10~12時あるいは14~16時>
高等学校: 8月1日(木)、6日(火)、7日(水) <10~12時あるいは14~16時>**

※上記いずれかにご参加いただきます。

各受講者の参加日時は、ブリティッシュ・カウンシルで指定の上、受講者への受講案内でお知らせします。

(5月23日~24日に予定) 上限人数があるため、このような方法となります。ご理解ください。

校務により指定された日時に参加できない場合、個別に調整します。

②ユニット2~4: セルフアクセス(eラーニング)

自分で学習時間を決めて進めていくeラーニングコース(合計8時間)で、9~12月にご自身のペースで取り組みます。(9月開講予定、詳細は別途連絡します)都合のよいところで中断・再開するなど、ご自身のペースで進めることができます。前ページに記載している時間数は目安です。各ユニットは更に2~3のモジュールに分かれます。ユニット2~4は順番に進める必要があります。テキストや動画を交えた構成で、内容確認のため簡単なテスト(クイズ)があり、受講の順番は定められています。(特定の内容を飛ばして進むことはできません)各ユニット終了後に、授業実践としての「事後タスク」が設定されています。

※事後タスクについて

各ユニットの受講後、研修で学習した指導技術等を活用して実際の授業で実践していただきます。

授業実践後はその成果や課題をオンラインフォームで報告していただきます。オンラインフォームでの回答締め切りは、「研修の流れ」(前ページ)に示す月の月末を予定しています。各ユニットで学習した指導技術等を、授業で継続的に活用することが大切です。

【事後タスク例】

○中学校: スモールトーク

- ①ライブ(ワークショップ)では、スモールトークについて扱いました。あなたが教えている学年に合わせて次のテーマ(ここでは省略。教科書の題材と共通するもの)から1つ選んでください。
- ②スモールトークを実施するための7つのステップ(ワークショップで紹介・練習済み)を参照し、授業でスモールトークを計画・実施してください。
- ③授業実践について、次の点を振り返り、オンラインフォームから回答してください。
ご自身の指導でうまく進んだ点はどんなところですか。生徒の反応や様子を教えてください。
次回実践する際には、どのように行いたいと思いますか。

○高等学校: 「書くこと」の指導

- ①ユニット4では、まとまりがある文章を書くために、アイデアを出す段階から推敲を重ねて完成原稿を作るまでのプロセスを紹介しました。そのプロセスを参照し、授業で実践してください。その際、クラス全体に対してフィードバックを与えてください(形成的評価)。
- ②授業実践について、次の点を振り返り、オンラインフォームから回答してください。
ご自身の指導でうまく進んだ点はどんなところですか。生徒の反応や様子を教えてください。
次回実践する際には、どのように行いたいと思いますか。

■過去の受講者の声*

帯活動でスモールトークを続けました。英語が苦手な生徒も多かったですが、使える英語が増え、もっと話してみたい、自分を知って欲しいと、積極的に表現する生徒が増えたことを大きく感じます。会話の展開が広がったこと、「次はこんな質問をしてみよう」と上達に向けて取り組める生徒が増えました。(中学校)

事後タスクは生徒への指導のヒントや自分を振り返るのにとても役立ちました。(中学校)

今までは自分が言ったことを生徒がリピートするだけの授業だったが、今日学んだアイデアを活用すれば、生徒たちが能動的に語彙学習に取り組むことができると思う。(高等学校)

※受講者コメントは本研修と同内容の研修に参加した教師からのコメントです。

申込締切日：5月14日(火) FAX またはメール必着

★参加申込み方法・受講開始までの流れ★

- ① **【5月14日(火)必着】** 参加申込書を FAX で送付するか、申込書の必要事項をメールに記載または申込書を添付し、一般財団法人日本私学教育研究所（送付先は下記）に送付してください。

<送付先>

一般財団法人日本私学教育研究所（担当：水澤）

F A X : **03-3222-1683**

メール : mizusawa@shigaku.or.jp

- ② **【お申込から1週間以内】**

当研究所より受付完了メールをお送りします。

1週間以上連絡が無い場合は電話にてお問い合わせください。

- ③ **【5月23日(木)～24日(金)頃】**

受講案内をメールで送付し、ライブ(ワークショップ)の参加日時をお知らせします。

- ④ **【中学校：6月下旬】【高等学校：8月上旬】** 受講を開始してください。

★注意事項★

※受付は先着順とし、申込者数が定員を超えた場合は、募集期間中でも締め切ります。

※受講に必要な PC・タブレット端末等はご自身でご用意ください。

※本研修では、今後の案内は全てメールで行います。お申込の際は普段使用しているメールアドレスを必ずご記入いただき、受講中は受信メールをご確認ください。

※必ず最後まで研修にご参加いただき、コースを完了してください。

※受講コースは中学校または高等学校を選択してください。

※高等学校を選択された方は、興味関心に基づいて A または B コースいずれかを選択してください。

高等学校の受講コースは、申込後の変更ができませんのでご注意ください。

A コース：生徒の英語力を伸ばすこと（イメージ…CEFR A1 や A2 の生徒の力を伸ばす）

B コース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばすこと

（イメージ…CEFR B1 以上を目指す生徒の英語力を伸ばす）

★申込についてのお問い合わせ★

一般財団法人日本私学教育研究所（担当：水澤、菅原、田淵）

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-3-8 市ヶ谷 UN ビル 6F

電話：03-3222-1621 FAX：03-3222-1683 E-MAIL：mizusawa@shigaku.or.jp

★企画運営(研修内容についてのお問い合わせ)★

本研修の企画開発及び運営は英国の公的な国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが担当します。世界及び日本各地で英語指導・教員研修を実施しており、平成 26～30 年度には「英語教育推進リーダー中央研修」を担当、近年は全国の教育委員会からの委託研修や教材作成、カリキュラム開発等を行っています。

ブリティッシュ・カウンシル

電話：03-3235-8034 E-MAIL：jp.training@britishcouncil.or.jp

FAX 03-3222-1683

E-mail mizusawa@shigaku.or.jp

※送信前に今一度、FAX 番号をご確認ください。0(ゼロ)発信の FAX 機でお送りいただく場合は、「0」を押してから、FAX 番号を押してください。

文部科学省実施 令和6年度
教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修
(中・高等学校教師プログラム)
参加申込書

				申込日	令和6年	月	日
①学校名						②職名	(例：教諭、講師 等)
③学校住所	〒						
④氏名	姓	カタカナ	(例：シガク)	名	カタカナ	(例：タロウ)	
	漢字	(例：私学)		漢字	(例：太郎)		
	Family Name		(例：Shigaku)	First Name		(例：Tarou)	
⑤連絡先	電話				FAX		
⑥メールアドレス							
⑦希望コース	※ 以下のいずれかに必ず○を付けてください。						
	中学校 ・ 高等学校						
	※【高等学校】を選択した方は、AコースまたはBコースのいずれかに○を付けてください。 Aコース：生徒の英語力を伸ばす（イメージ…CEFR A1 やA2 の生徒の力を伸ばす） Bコース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばす （イメージ…CEFR B1 以上を目指す生徒の英語力を伸ばす）						
	Aコース ・ Bコース						
通信欄							
						受付番号	